

## 蔵王山の火山活動解説資料（平成29年5月）

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。  
蔵王山では、2013年から2015年にかけて火山活動の高まりがみられました。その後も火山性地震や火山性微動が時々発生していますので、今後の火山活動の推移に注意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

遠刈田温泉、上山金谷、刈田岳及び御釜北に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図2-②③、図3）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

2013年以降、御釜の東から南東数km付近、深さ20～30km付近を震源とする深部低周波地震がやや増加した状態で経過しています。

#### ・地殻変動（図2-④、図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

---

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成29年6月分）は平成29年7月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

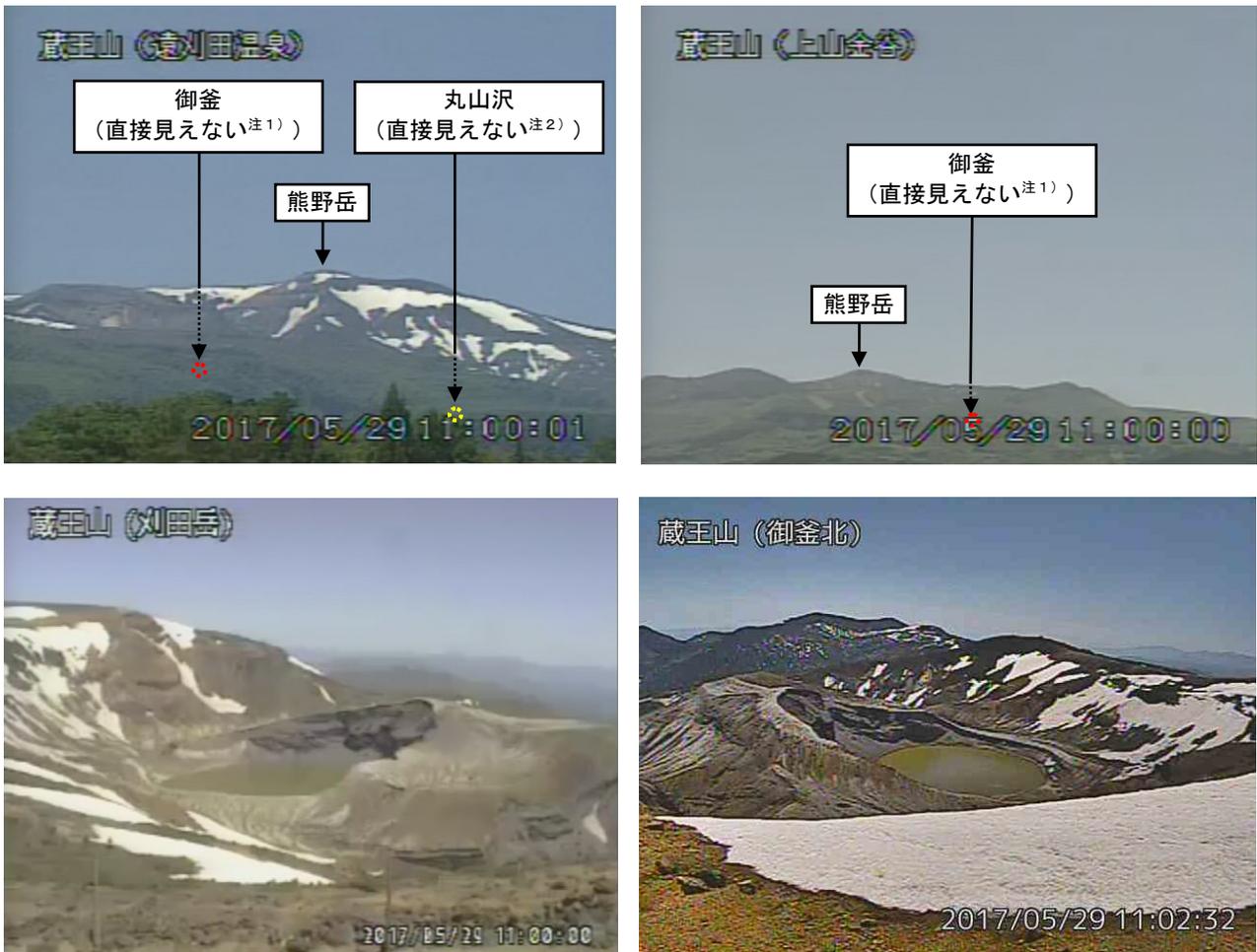


図1 蔵王山 山頂部の状況（5月29日）

- ・左上図：遠刈田温泉（山頂の東約13km）に設置している監視カメラの映像です。
- ・右上図：上山金谷（山頂の西約13km）に設置している監視カメラの映像です。
- ・左下図：刈田岳（御釜の南約800m）に設置している監視カメラの映像です。
- ・右下図：御釜北（御釜の北約800m）に設置している監視カメラの映像です。

注1) 御釜から噴気が噴出した場合、遠刈田温泉及び上山金谷では高さ200m以上のときに観測されます。  
点線赤丸が御釜の位置を示します。

注2) 丸山沢からの噴気は、高さ100m以上のときに遠刈田温泉監視カメラで観測されます。  
点線黄丸が丸山沢の位置を示します。

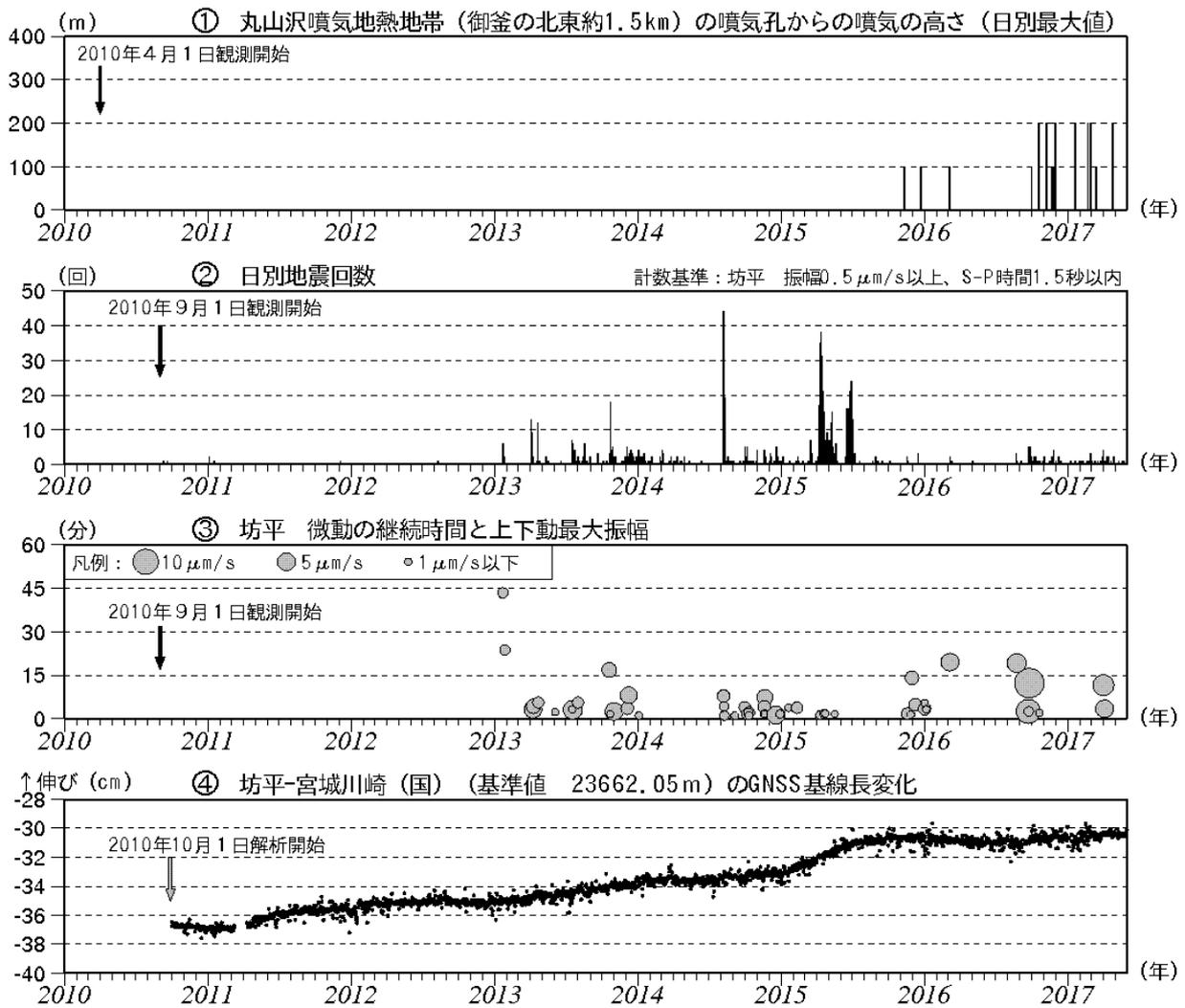


図2 蔵王山 火山活動経過図（2010年4月～2017年5月）

- ・ 2014年10月から2015年6月頃にかけて、山体のわずかな膨張を示す地殻変動が観測されており、2015年4月から2015年6月頃にかけて地震回数の増加がみられました。
- ・ ④は図6のGNSS<sup>1)</sup> 基線①に対応しています。

1) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

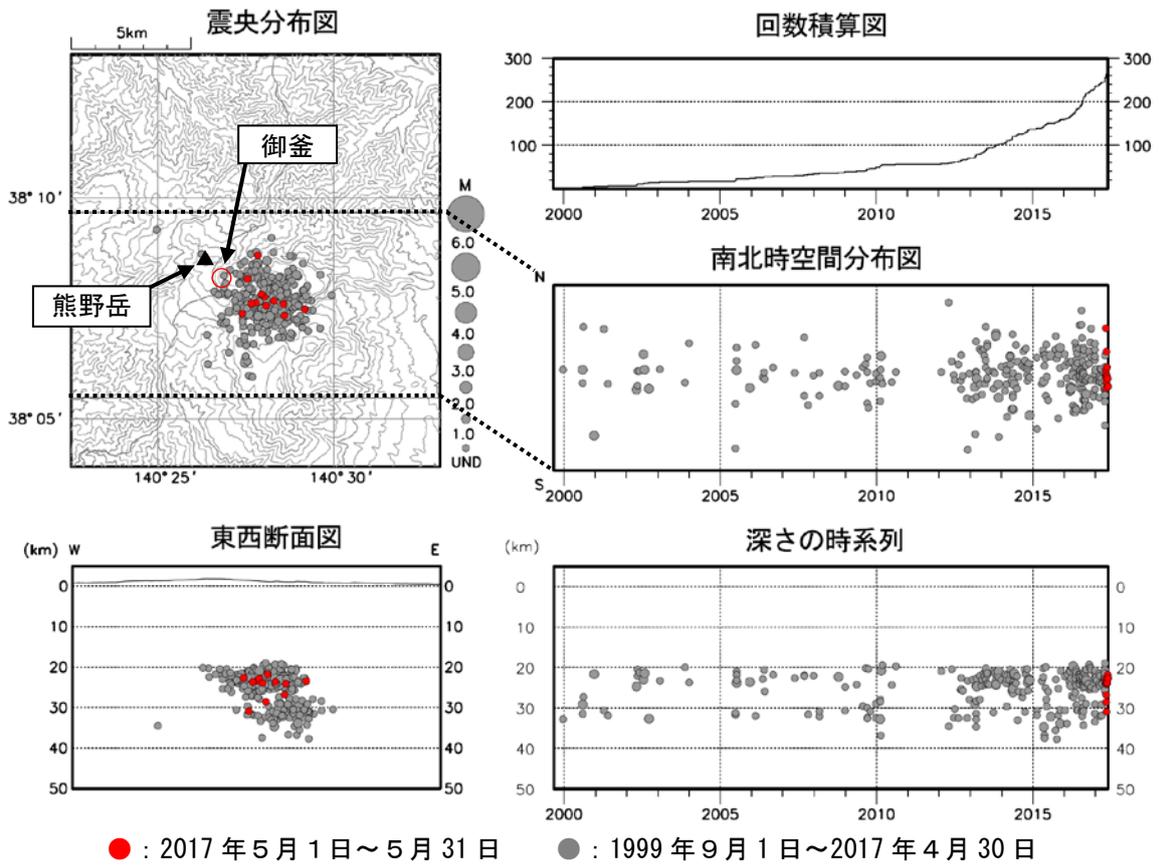


図3 蔵王山 広域地震観測網による深部低周波地震活動（1999年9月～2017年5月）

・2013年以降、深部低周波地震（特に深さ20～30km付近の地震）がやや増加した状態で経過しています。

注）2001年10月以降、検知能力が向上しています。

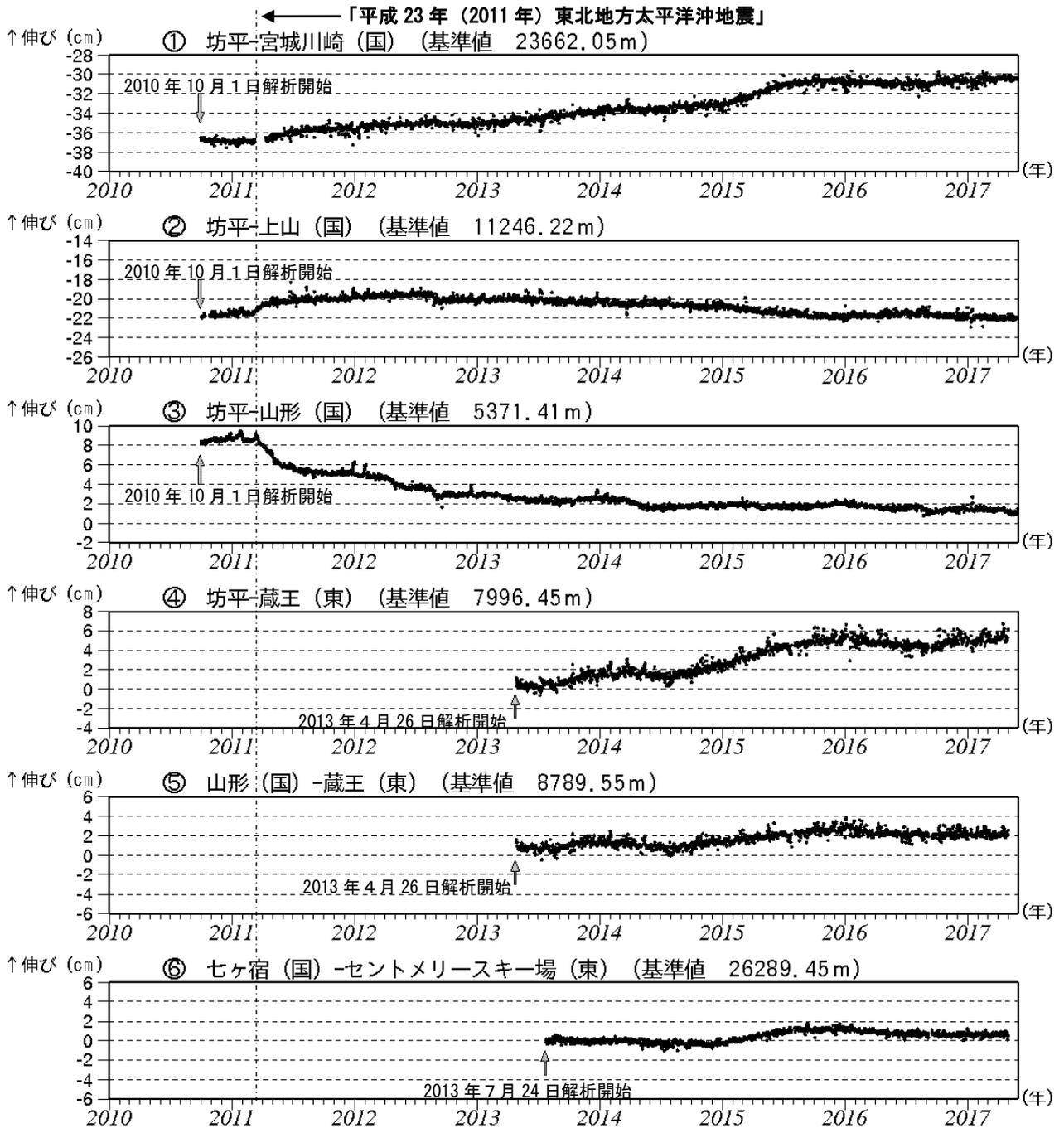


図4 蔵王山 GNSS 基線長変化図 (2010年10月～2017年5月)

- ・ 「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～⑥は図6のGNSS基線①～⑥に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ・ 東北大学の基線で解析遅れがあります。
- ・ (国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。

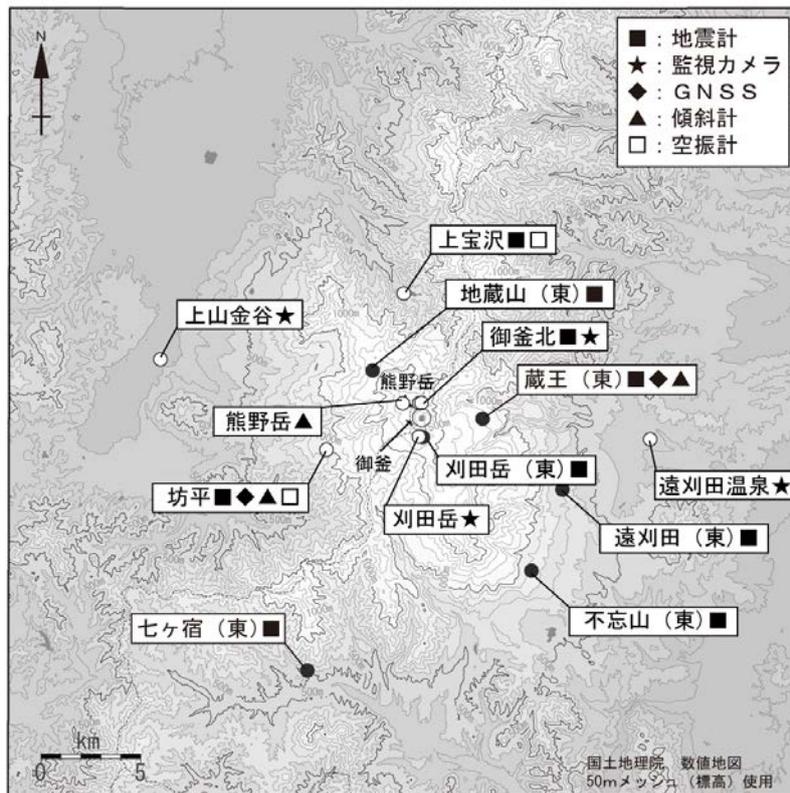


図5 蔵王山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (東) : 東北大学

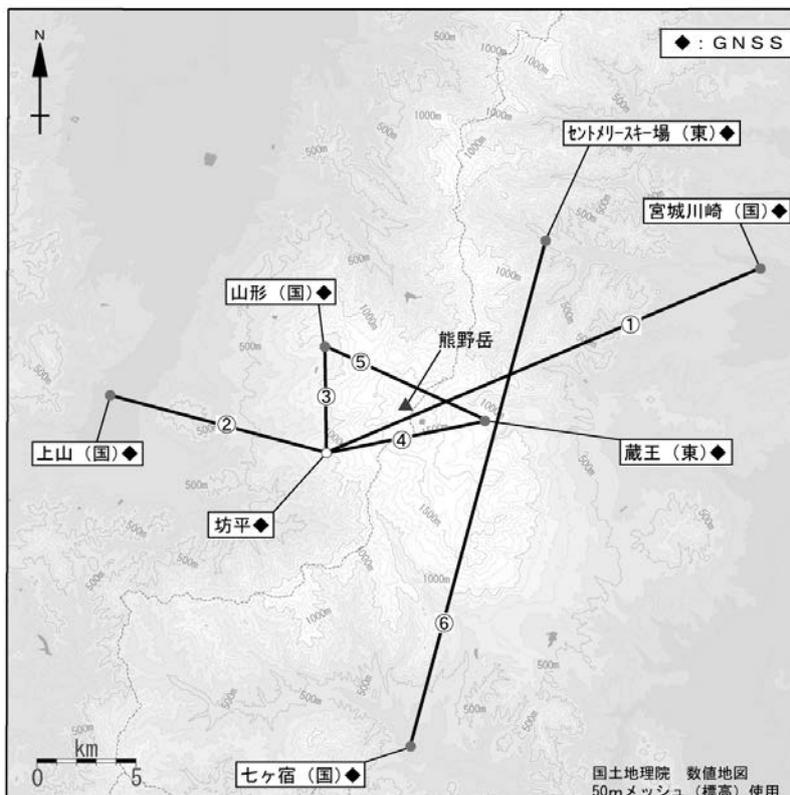


図6 蔵王山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院 (東) : 東北大学